

新任饗略○中

暑日羞膳次第○略

五獻蛤以下或六獻後鱗煎物鷄頭草、

〔親元日記〕文明十三年七月廿五日戊戌貴殿御進上鴨二、蛸一折、十五年四月廿日壬午御方御所様より五種、鯛、佐渡蛸、鹽、鮑、烏賊、柳、五荷御拜領、五月九日辛丑兵庫殿御進上鯛五千、蛸一折以上長谷へまいる、

〔文祿四年御成記〕御二獻 蝸 御五卷小蛸魚 三ノ御膳 蝸 御相伴二ノ膳 蝸 諸大夫衆
二ノ膳 たこ 御能之時樂屋本膳 たこ

〔文祿四年御成記〕御二獻 小蛸魚

〔四條流庖丁書〕タコキリモルベキ事 タコヲバ前へ置テ可出、扱飯ノ御回ナラバ、如何ニモ薄ク丸ク可切、御肴ニハ少厚ク長ク切ベシ、何ニモイボヲスキ、皮ヲムキテ可切也、

〔日本山海名產圖會四章魚○中略〕

越中富山滑り川の大鮒は是亦牛馬を取喰ひ、漁舟を覆して人を取り、漁人是を捕ふに術なし、故に船中に空寝して待てば、鮒窺ひ寄て手を延、船のうへに打かくるを、目早く鉈をもつて其足を切落し、速に漕ぎかへる。略中 又此疣一つを服して、一日の食に抵あつれども足れりとすなり、この餘の種類人によく知る處なればこゝに略す、

〔新撰字鏡〕鰐哀都反、鰐伊加、鰐薄角反、鰐伊加

〔本草和名十十六〕烏賊魚、陶景注云、鷦鷯所化也、崔禹云、垂訂而浮、烏一名河神之吏、禹一名河伯度事、小吏出今注和名以加

〔倭名類聚抄十九〕烏賊 南越志云、烏賊亦作鰐、見玉篇、和名伊加、鰐常自浮水上、烏見以爲死啄之、乃

鳥賊メ